

# 家 庭

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

「持続可能な消費生活・環境」の単元における主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践と適切な学習評価

### (2) 研究のねらい

高等学校学習指導要領では、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視している。本研究では、「持続可能な消費生活・環境」の単元における生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性に焦点を当て、「持続可能な消費生活・環境」の単元の指導計画の作成、授業展開の工夫等を行うとともに、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践と適切な学習評価について検討することとした。

## 2 実践事例

### (1) 単元指導計画

ア 科目名：家庭基礎

イ 単元名：消費行動を考える

ウ 単元の目標

- (ア) 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組み、生活と環境との関わりや持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義について理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。
- (イ) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費、持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (ウ) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理、消費行動と意思決定、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

エ 単元の評価規準


知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。</li><li>・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。</li><li>・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費、持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理、消費行動と意思決定、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</li></ul>

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	<p>【単元を貫く問い】成人として適切な意思決定をし、持続可能な消費生活を実現するためには何が必要か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の目標を確認し、【単元を貫く問い】について自分の考えを記入する。</li> <li>消費行動と意思決定</li> <li>主体的な消費行動について多角的に考える。</li> <li>情報社会における生活情報について知り、その適切な活用方法について考える。</li> </ul>	○	●		<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的に学習に取り組む態度」が単元を通じてどのように変容したか見取るためにワークシートを継続的に使用する形式にするなど工夫する。</li> <li>消費行動における意思決定の過程とその重要性について、身近な例などを示し自分と結び付けて考え理解できるようにする。</li> </ul> <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問いに対しての考えを自分なりに考えようとしている。(態) (観察、ワークシート)</li> <li>消費行動と意思決定について理解するとともに、様々な情報を収集・整理しながら自分の消費行動について検証できるようにする。(知) (ワークシート、定期テスト)</li> <li>自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入のあり方や、消費行動、消費と環境とのかかわりについて課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態) (観察、ワークシート)</li> </ul>
		<p>＜消費生活の現状と課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>契約、多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。</li> <li>問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。</li> </ul>	○	○		<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>契約の重要性や未成年・成年の法律上の責任の違いについて、理解できるようにする。</li> <li>消費者被害を未然に防止するための具体的な方法について考えさせる。</li> </ul> <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様化する販売方法や支払い方法について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態) (観察、ワークシート、定期テスト)</li> </ul>
		<p>＜消費者の権利と責任＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費者被害の事例を調べ、消費者の権利と責任を考える。</li> <li>これからの社会に求められる消費者の自覚と、行動のあり方を検討する。</li> </ul>	○	●		<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費者の権利と責任は表裏一体であり、権利の行使は責任が伴うことについて理解できるようにする。</li> </ul> <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費者の権利と責任や現代の消費生活の課題について理解している。(知)</li> <li>消費者としての自覚を持ち、消費者の権利と責任、行動のあり方について考え、工夫している。(思) (ワークシート、定期テスト)</li> </ul>
3	4	<p>＜ライフスタイルと環境＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活が地球環境やグローバル社会に与える影響について考える。</li> <li>持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。</li> </ul>	○	●		<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な社会とは、安全で安心な生活と消費とはどのようなものであるか多面的・多角的に考察するとともに、どのような工夫ができるか具体的に考察し、実践に結び付けることができるようにする。</li> </ul> <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費行動と環境との関わりについて、生活と関連させながら問題を見いだして課題を設定し、課題解決に向けて考え、工夫している。(思) (観察、ワークシート)</li> </ul>

4	5	<p>&lt;暮らしと経済&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活における経済と社会の関わりについて学ぶ。</li> <li>収入と支出にはどのような項目があるのか学ぶ。</li> <li>適切な家計管理について考える。</li> </ul>	○	○	<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活の基盤としての家計管理の重要性や家計と経済の関わりについて理解できるようにする。</li> </ul> <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭経済・国民経済などのしくみ、短期・長期的経済計画の重要性について理解している。(知)</li> <li>現在の経済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて考え、工夫している。(思)(ワークシート)</li> </ul>
	6	<p>&lt;リスク管理と資産形成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジグソー法により、金融商品の特徴と選択基準を学び、自分自身の性格にあった金融商品を考える。</li> </ul>	○	●	<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リスク管理の必要性を踏まえ将来にわたる不測の事態に備えた経済計画について考察できるようにする。</li> </ul> <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な資産形成から、自分に合った方法について考え、選択し、考察したことを論理的に表現している。(思)(観察、ワークシート)</li> </ul>
5	7	<p>&lt;まとめ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元のまとめとして、【単元を貫く問い】に対して、自らの考えを記入する。</li> </ul>		○	<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習の前後や過程を振り返り、自分の考えや行動などがどのように変化したか、今後どのように行動していこうと考えているかなどについて記入させる。</li> </ul> <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自立した消費者として生活における経済の管理、消費行動と意思決定、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。(態)(ワークシート)</li> </ul>

カ 授業実践例 (6時間目/7時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 本時の学習内容の説明と目標の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の内容を知る</li> <li>*事前に行ったアンケート結果とライフイベントにかかる費用を提示し、生涯に必要なお金について意識させる。</li> <li>*本時は、資産形成の特徴を学び、将来に備えた長期的な経済計画について考えることを伝える。</li> </ul> <p>2. 「人生の中で経験したいライフイベント」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライフイベントとお金の関係(収入と支出、時期等)について問いかける。</li> </ul> <p>3. 4種類の資産形成の方法のうち1種類について理解する。(参考1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自で資料をよく読み、大切だと思うところに線を引く。</li> <li>同じ資料の生徒4人1グループになり、それぞれが大切だと思ったことを共有し、理解を深める。</li> <li>*より深い理解のために、自分が気付かなかった情報に線を引いたりメモをしたりするように伝える。</li> </ul> <p>4. 4種類の資産形成について学ぶ。(参考1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4種類の資料が1班に集まるように班を作り、それぞれの資産形成の要点を教え合い、ワークシートにまとめる。</li> <li>*グループの座席表を示し、移動がスムーズにできるようにする。</li> </ul>	

(ワークシート (参考2-1) )

(2)各担当の説明を聞き、資産形成の要点について「安全性」「収益性」「流動性」項目を○△、おすすめ度を1~4でまとめよう。(班で話し合っって同じにする必要性はなし、自分の考えを記入)

	安全性	収益性	流動性	おすすめ度		安全性	収益性	流動性	おすすめ度
①株式					③投資信託				
②債券					④預貯金				

5. A教諭に合う資産形成を考える。

・A教諭に合う資産形成の結論を出し、理由とともにワークシートにまとめる。

\*A教諭のライフスタイルを見直しながら班で話し合い考えるように伝える。

(ワークシート (参考2-1) )

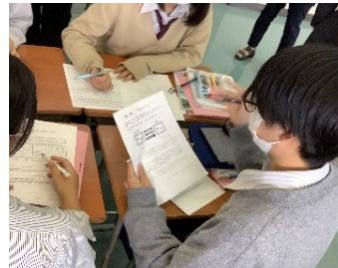
(3)Aさんに合った資産形成を班で話し合っって結論を出そう。

結論 私たちが選んだAさんにおすすめの資産形成は、

( ①株式 ・ ②債券 ・ ③投資信託 ・ ④預貯金 )です。

理由は、

です。



6. 各班で選んだ方法と理由について発表する。

7. 自分に合った資産形成を考える。

\*年度当初に考えた生涯の生活設計に関連して考えさせる。

(ワークシート (参考2-1) )

<Work 2> 今日の授業をふまえて考えよう

(1)自分が将来のリスクに備えるために選びたい資産形成とその理由を考えよう。(思・判・表)

わたしが選んだ資産形成の方法は、( ①株式 ・ ②債券 ・ ③投資信託 ・ ④預貯金 )です。

理由は、


8. グループでの活動について、自己評価と相互評価を行う。

(ワークシート (参考2-2) )

(2)今日の話し合いを評価しよう。

A 他者の意見を引き出したり、補ったりして話し合うことができる。

B 自分の意見を出し、その根拠とともに話を深めたり、広げたりしている。

C 自分の意見を出すことができる。

D 自分の意見が出せない。

話し合いの自己 相互評価	自分	グループメンバー			
		( )	( )	( )	( )
<Work1>(1)					

話し合いの自己 相互評価	自分	グループメンバー			
		( )	( )	( )	( )
<Work1>(2)(3)					



(ワークシート)

【思考・判断・表現】

○記録に残す評価

(ワークシート)

【主体的に学習に取り組む態度】

●指導に活かす評価

研究実施校：神奈川県立大和西高等学校(全日制)

実施日：令和4年10月14日(金)

授業担当者：岡田 寛未 教諭

キ 本時の評価規準Aと判断される具体的な例とCと評価する生徒への手立ての例

【思考・判断・表現】 学習活動における具体的評価規準

「概ね満足できる（B）」と判断できる状況	様々な資産形成から、自分に合った方法について考え、選択し、考察したことを論理的に表現している。
「十分満足できる（A）」と判断される状況例	これまでに学んだ消費生活の内容についての知識と技能をいかし、それぞれの資産形成の方法を理解した上で、自分の性格や将来のライフスタイルなどと照らし合わせ、自分に合った方法を客観的に分析して選択し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。
「努力を要する（C）」と評価した生徒への手立て	資産形成の資料や学習内容、ワークシートの事例を振り返り、他の生徒の記述内容等を参考に自分の考えをまとめることができるようにする。

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

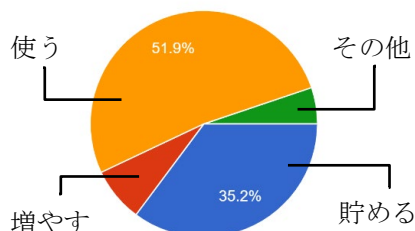
ア 単元における主体的・対話的で深い学びについて

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説家庭編』（以下、『解説』という）に、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるための留意点が示されている。その留意点の一つに「1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。」（『解説』p. 4）と示されている。本研究では、基礎的・基本的な知識及び技能を習得して、生徒が生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践、評価・改善するという一連の学習過程から主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、単元計画と授業展開を作成する。単元については、「生涯を見通した経済計画を立てるには、教育資金、住宅取得、老後の備えの他にも、事故や病気、失業などリスクへの対応が必要であることを取り上げ、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット、デメリット）、資産形成の視点にも触れるようにする。」（『解説』p. 39）と示されている。本研究では、持続可能な消費生活・環境の預貯金、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット・デメリット）について授業実践を行った。

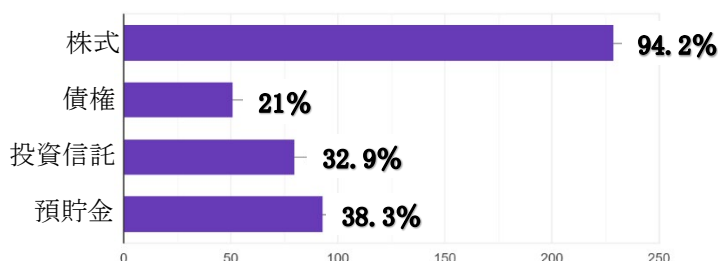
単元の導入として、Googleフォームによる事前アンケート調査を実施した。（資料1）「あなたにとってお金とはどのようなものですか？」の問いでは、「使う」と回答した生徒が51.9%、「貯める」と回答した生徒が35.2%、「増やす」と回答した生徒が7.8%であった。次に「お金を増やす方法を知っていますか？」の問いでは、「株式」と回答した生徒が94.2%、「債券」と回答した生徒が21%、「投資信託」と回答した生徒が32.9%、「預貯金」と回答した生徒が38.3%であった。

(資料1) 事前アンケート

・「あなたにとってお金とはどのようなものですか？」



・「お金を増やす方法を知っていますか？知っているものを教えてください」



授業実践の工夫として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「ジグソー法」を用いた。

授業の導入に、経験したいライフイベントとその費用について提示し、生涯を見通した経済計画を立てるために必要な資金やリスクの対応について考えさせた。次に、当該学年A教諭をモデルとして資産形成を考えさせることにより、主体的な学びにつなげていく環境づくりを行った。「ジグソー法」を用いたエキスパート活動では、担当する株式、債券、投資信託、預貯金のグループに分かれて資料



を読み、大事なところには下線を引きながら要点等を確認するという作業を行った。担当グループの生徒同士で、資料の内容や重要だと思われる点等を、対話を通して確認していた。確認終了後、ジグソー活動でグループとなり、株式、債券、投資信託、預貯金の担当生徒が資料の内容を説明した。説明を聞いた生徒は、資産形成の要点である「安全性」「収益性」「流動性」の項目について、おすすめ度を表す◎、○、△を用いてワークシートに評価を記入した。ここでも生徒同士、各エキスパートの説明について質問をしたり、意見交換をしたりしながら評価を導き出す姿があった。その後、A教諭のモデルに適した資産形成をグループで話し合った。エキスパート活動の資料を活用しながら、それぞれの担当が学んだ知識・技能をいかして、課題を解決できるような話し合いが行われていた。これらの「ジグソー法」による活動により、対話的な学びができたといえる。最後に、学習を見通して振り返る場面として、自らが将来のリスクに備えるために選びたい資産形成とその理由について個人で考えてワークシートに記入した。(資料2)

(資料2) 自らが選ぶ資産形成について (生徒の記述より)

選択した資産形成	理由
株式	最近話題になっているし、親がやっているから学んでやってみたい。リスクはたしかに大きいけれど、長く生きているうちに、儲かるチャンスがあるかもしれないし、自分の意志で好きなだけお金をかけられるから。将来結婚したいとか、今はないし、自分や親だけのために生きる生活になったら、楽しみながらやってみたいし、株式をやったら、政治や社会にもっと興味を持って生きていけると思ったから。
	もうかると信じられる会社の株式を買うことができれば、収益が2倍3倍になることができるから。さらに株主優待をもらえるため、子どもや暮らしを豊かにすることができるから(例: ディズニーや食品の会社、おもちゃの会社など) 売り上げが上がる程、会社と自分ともうかるから winwin になることができる。
債券	債券はほぼ確実に貸したお金が減ってかえってくることはないので安全性がとても高いし、国に貸すので信頼度はとても高いからです。ほかの資産形成だと失敗してお金が減ってしまう可能性があるから。
	債券が一番安全にできるので私は株とかの上がり下がりを見てやったりするのは不向きだと思ったので債券にしました。債券は収益性が低いけど、ちりも積もれば山となるという言葉信じてゆっくり安全に貯められればいいと思います。将来、自分の好きな服とかたくさん買いたいので少しでも安全に貯めることができるようならそうしたいと思ったからです。
投資信託	株式だと収益性は高く1度にたくさんお金が入るけど、そのぶん損する可能性もあるし、預貯金だと安全性が高く損をするリスクが低いけど利益はほとんど見込めないけど投資信託だとプロに任せるから安全性も高く、利益もそれなりに見込めてしかも1ヵ月1万から始められて流動性も高いから簡単に始められる投資信託にした。
	自分が投資した企業の株価をチェックすることがめんどくさいし、勉強しないと株の売り時、買い時がわからない株式より、お金を出してプロがやってくれるほうが楽、分散投資でリスクの小さい投資信託が自分には合っていると思いました。また債券よりも細かい金額設定ができるのもいいところだと思います。
預貯金	株式と迷ったのですが、株式はしくみがとても複雑でいろいろと勉強しないとイケませんし、損をするリスクがとても高いため、私には向いていないかなと思います。それよりもきちんと減らずにお金を管理してくれる預貯金や、利子がちょっとつく債券の方が、よっぽど良いかなと思います。欲張りにならず、なんとか自分が働いてかせいだ給料だけでやりくりしたいです。
	安全性が高いというので、そこまで大きな額でなければ、銀行がなくなっても返ってくるのが良いのと、流動性という部分で、私は気分がころころと変わるので、自分の意思により取り出すことができるのは大きいと思いました。収益性は良くありませんが、その分、自分が節約したり、仕事をする時間や日数を増やすなど取り組んでいけばいいと思いました。全てをもち合わせているものはないので、妥協は必然だと思います。

生活の営みに係る見方・考え方については、「ジグソー法」による学習過程でA教諭のモデルから問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践、評価・改善する活動ができたといえる。その中で生徒が自分の将来の資産形成について多角的に捉えることができたことから、この学習過程から生徒の深い学びができたと考える。（資料3）

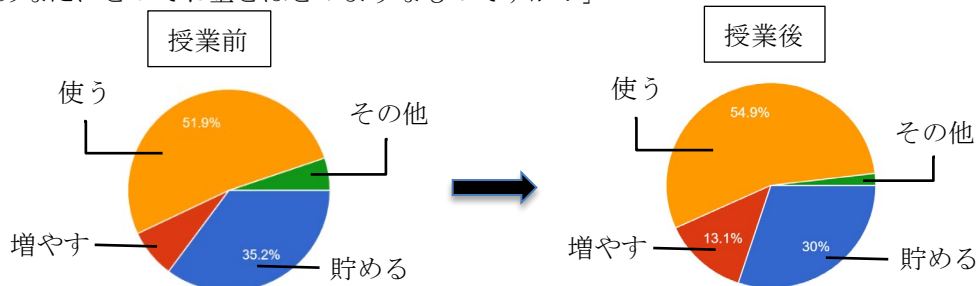
（資料3） モデルAさんに適した資産形成について（生徒の記述より）

選択した資産形成	理由
株式	Aさんの人生計画ではお金がたくさん必要なので、収益性の高い株式が良いと思ったから
	Aさんはたくさんお金が必要だから、収益性の高い株式がいいと思ったのと、農業をするならゆっくりできる時間ができると思うから株の上がり下がりもちゃんと見れると思うから
債券	ほぼ確実に利益が回収でき、安全性が高く、マイナスになることはないから
	今すぐではないなら、満期になれば必ず元本は必ず戻ってこれるし、利息をプラスにもらえるから
投資信託	農業や教師の仕事をしながらプロに任せてできて、お金も比較的たくさん入ってくると思うから
	お金はかかるが、プロに任せるので安全性は高く、分散投資もできて、ダメージもあまり大きくなくて済むから
預貯金	流動性がよく、すごく安全。子供がふたり欲しかったら、子供はお金がかかるから安全なお金がある預貯金がいいと思うから
	安全性がとても高いし、流動性もよく自分のタイミングでできるから結婚生活や子育てがあったので、安全性を一番に大切にしたいと思った

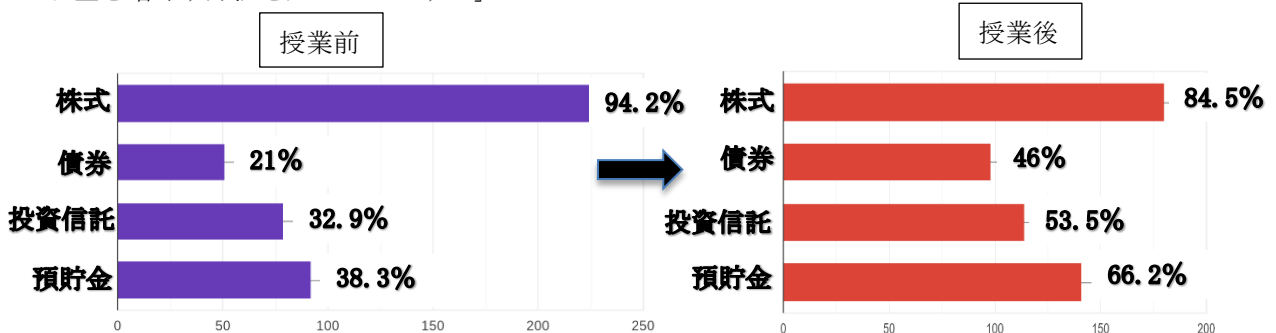
単元の終わりに、Googleフォームによる事後アンケート調査を実施した。（資料4）「あなたにとってお金とはどのようなものですか？」の問いでは、「増やす」と回答した生徒が7.8%から13.1%へとほぼ倍増した。「お金を増やす方法を知っていますか？」の問いについても「株式」「預貯金」に偏っていた事前アンケートから、「債権」が21%から46%へ、「投資信託」が32.9%から53.5%へと大きく増加した。授業実践により、預貯金だけではなく、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット、デメリット）について多角的に捉えることができるようになった結果だと思われる。

（資料4）事後アンケート

- ・「あなたにとってお金とはどのようなものですか？」



- ・「お金を増やす方法を知っていますか？」



## イ 単元における適切な学習評価の工夫について

研究のテーマである「適切な評価」については、記録に残す評価と指導に生かす評価を整理し検討した。記録に残す評価（思考・判断・表現）として、本時の授業の内容についてだけではなく、それぞれの資産運用の方法を理解したうえで、自分の性格や将来のライフスタイルなどと照らし合わせて考えられているかを評価することとした。指導に生かす評価としては、それぞれの班での話し合いがどの程度主体的・対話的におこなわれたのかを「見える化」するために、ワークシートに、グループでの活動ごとの自己評価と相互評価の項目を作成した。評価は、「他者の意見を引き出したり、補ったりして話し合うことができる」、「自分の意見を出し、その根拠とともに話を深めたり、広げたりしている」、「自分の意見を出すことができる」、「自分の意見が出せない」の4段階とした。ワークシートには、生徒の学習評価の理解が深まるように単元の評価規準を記載した。さらに各学習過程における思考を深めるために、タイムマネジメント及び学習活動をより効果的にする視点をスライドの提示や口頭での詳細な解説を加えるなどの工夫をした。

今回のジグソー法を用いた授業では、4種類の資料を使用したが生徒は自分が担当した資料以外を活動の中で目にする機会がないため、それぞれの資料の内容を理解しきれなかった生徒に対して、授業後に4種類の資料の内容を共有する等の工夫が必要であることを付け加えておく。

単元を貫く問いについては、「成人として適切な意思決定をし、持続可能な消費生活を実現するためには何が必要か？」と設定した。「資産形成」というキーワードを用いて考えさせ、授業後にGoogleフォームによる回答をさせた。

## ウ 成果

今回用いたジグソー法は、学習者同士の協力や教え合いを促進し、それを通して学びを深める共同学習である。他者に教えることで内容についての理解度も上がり、自らの問題意識も深まるため、個々が考え、活発に言語活動が行われていたことは、大きな成果としてあげられる。例えば、導入部分では自らのライフプランを考えさせ、進学や結婚、老後にかかる費用を提示し、将来必要になる費用を具体的にイメージさせることで、本時の内容に入りやすくなった。これは、個々が自分事としてとらえ、他者と活発に話し合いができるような工夫を盛り込めたからだと考える。また、自分に合った資産形成を考える前に、身近な人物をモデルにして資産形成について考えたことが、学習活動に対するモチベーションにつながったと考えられる。評価に関しても、要点を◎、○、△で判断することで、話し合いがスムーズに進んだ。他者の意見を多く聞いたことも今後の自らの人生を考えるうえで大きく役立ったと思われる。

## エ 課題・今後に向けて

ジグソー法を用いての授業は、エキスパート活動とジグソー活動の2つのグループでの活動を行うため、タイムマネジメントが重要となる。今回はICTを活用し、全体に時間を示すことでタイムマネジメントをうまく行うことができた。これも成果の一つと言えるが、エキスパート活動に用いる資料に関しては、内容を分かりやすく整理し、統一感のある資料を準備することが生徒の活動をより円滑にさせることにつながると感じた。また、今回は実施しなかったが、進行役やファシリテータを置くことも、グループ活動での話し合いをより活発にスムーズに進めるために必要であると感じた。

ジグソー活動では4種類の資料を用いて行うが、活動のなかではすべての資料を目にする機会がないため、自分の資料以外の理解度は生徒によって様々である。そのため、使用した資料の共有方法を工夫する必要がある。使用したすべての資料の共有を行うことで、ジグソー活動で理解ができなかった生徒だけではなく、全体の理解度も上がっていくのではないかと考える。また、資料の共有については、その方法とともにどのタイミングで共有するのかについても工夫する必要がある。

今回の授業を通して、生徒は、将来の資産形成について人任せにすることなく考えたことで、自らの人生を自らの力で歩いていくための最初の一步を踏み出すことができたと思う。今後も持続可能な消費生活を実現するための学習活動を追求していきたい。



資料① 「株式」

班で話し合っで大切だと思うところに線を引き、自分で説明できるようにしよう。

株式とは、「この会社・お店を応援しよう！とお金を渡して、その代わりにもらえるメンバーズカード」です。

お金を渡すことを「出資（しゅっし）」、メンバーズカードのことを「株券（かぶけん）」、出資したメンバーのことを「株主（かぶぬし）」といいます。

例えば、ある街で「ハンバーガー屋を始めるぞ！たくさんの人に僕の美味しいハンバーガーを食べてもらおうだ！」と考える「起業家」がいました。お店を始める時は、いろいろとお金がかかるようで、起業家は、「お金を出してくれる人」を募集していました。

その起業家を「応援したい」と思っでお店を始めるためのお金を渡すことを「出資」といい、出資すると、起業家は代わりに「特別なメンバーズカード」＝「株券」を渡してくれます。出資した金額に応じて、もらえる株券の枚数は変わります。

無事にお金が集まると、いよいよ新しいハンバーガー屋がオープンします。お店の人気は順調で、だいが「売上」もあがっている様子。その時、「出資してくれた人へのお礼で、利益の一部を渡しますね」と言われ、それなりのお金を受け取りました。これが、「配当金」です。また、半年に一回もらえる優待チケット（＝「株主優待」）も受け取りました。

月日は流れ、いつの間にか「行列ができる繁盛店」に成長していき、株券の「人気」や「希少価値」も上がっていききました。このように、お店が儲かることによって、株券の価値も上がります。

お店も軌道に乗ったようだし、自分も「将来のための勉強」や「大事な家族旅行」にお金を使う予定があるので、もらった株券2枚のうち1枚を、「お金を払ってでもほしい」という人に譲っでお金をもらっ（売却）ことにしました。株券を譲った代りに受け取ったお金は、なんと、最初に起業家に渡した時の3倍以上の金額になりました。

しかし、株式は「絶対に儲かる」とは限りません。思っただけの人数が出なかったり、売れすぎて「利益」が出なかったり、食中毒が発生しお客さんが来なくなっでしまったり、近くに競合店がきたり、理由は様々です。

お店が儲からなかったら、先ほどの「配当金」はもらえませんが、特別メンバーズカード＝「株券」の価値も上がりません。

配当金ももらえず、株券の価値も下がった状態で譲る（売る）ことになったら、だいが損することになります。それどころか、お店の売上・利益が上がらず、閉店することになったら、「出資を受けとった側」に返す義務はないので、「出資した人＝株主」には1円も返ってこない、つまり、全部パーになる可能性すらあります。

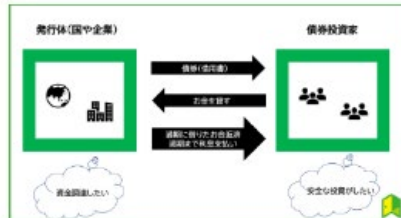
出典：FP オフィス「あしたば」HP <https://ashitaba-mirai.jp/>

資料② 「債券」

班で話し合っで大切だと思うところに線を引き、自分で説明できるようにしよう。

債券投資とは、「発行体である企業や国にお金を貸すこと」で、お金を貸したという証明書が「債券」にあたります。種類は、国が発行する「国債」、自治体が発行する「地方債」、そして企業によって発行される「社債」などに分けられます。

投資家は、満期日に発行体（企業や国）から貸したお金と利息を受け取るということになります。



今回は、高い信用力のある「日本国債」を購入することにしました。日本国債とは名前の通り、日本政府が国家予算を作成したときに不足分の財源確保を担っで発行する債券です。日本で発行される債券の9割はこの国債に当たります。元本割れがなく（マイナスにはならないということ）、1万円から購入できるという手軽さも魅力です。

例えば、計算がしやすいので満期5年、1年間で5%の利息の債券を100万円分購入したとします。その場合、毎年5万円を受け取ることができ、5年後には投資元本の100万円も返済してもらえます。合計で125万円受け取れるから、25万円多く受け取ることになります（税金除く）。「日本国債」は確率リスクが低いため、ほぼ確実に利益が回収できるから、安全性が高いといえます。しかし、その分収益性が低く、預貯金とあまり変わらないということも言えます。

それでは、今の利率ではどうでしょう。2022年9月現在の利率は0.05%のため、上記の例と同じ100万円を購入した場合、毎年500円を受け取ることができ、5年後には投資元本の100万円も返済してもらえます。合計で100万2,500円受け取れるから、元よりも2,500円多く受け取ることになるわけです。

出典：いろはに投資HP <https://www.bridge-saknu.jp/toushi/>

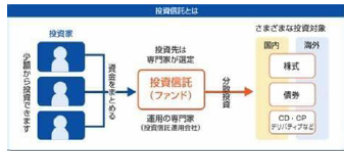
資料③ 「投資信託」

班で話し合っで大切だと思うところに線を引き、自分で説明できるようにしよう。

投資したい人が投資する金額に特段の制約はなく、「月1万円」でも「一括で100万円」でもOK！金額の下限は窓口の金融機関によって異なりますが、だいたい数千円～1万円が一般的です。逆に、上限はほぼありませんので、数千万円単位で投資する方もいます。

タイミングは「月々」か「まとまったお金を一括」が基本ですが、金融機関によっては「毎日」「ボーナス時」「毎年」など柔軟に対応してくれるところもあります。そのため、最近では「お釣りに投資」や「毎月100円」みたいな超少額の投資方法も登場しているのです。

「プロ・専門家に任せる」点が投資信託の最大のポイント。そもそも、文字通り「信じて託す投資方法」だからこそ、投資信託という名前が付いています。プロに運用を任せるため、自分で細かく調べて投資する企業を選んだり、株価等の変動を見ながら「売ったり買ったり」する必要もありません。投資先の企業等の情報は「アナリスト」といわれる専門家が調査してくれますし、実際に売ったり買ったりするトレーディングは「ファンドマネージャー」という専門家が実行してくれます。餅は餅屋に任せましょう！ということですね。ただし、別途プロに任せることへの対価として、一定の「手数料」を支払うことにはなります。



「分散投資」ができるのも、非常に重要なポイントです。  
 ・投資した企業が倒産する可能性もあるが、数十～数百の企業に分散して投資するため、仮に1社が倒産してもダメージは軽くて済む  
 ・その分散投資を実現するには大きな資金が必要だが、多くの投資家から資金を募っているため、十分な分散投資が可能（最小数十～数百億円の資金で運用しています）

投資において「分散」は必須ですが、「少額の投資資金しか持っていない一般生活者」にとって、自分でそれを実行するのは難しいもの。

このように、だれでも気軽に投資を始められる投資信託ですが、当然ながら「投資リスク（元本割れリスク）」があります。プロに任せただけとあって「必ず利益が出る（ふえる）」ものではなく、利益が出るかもしれませんが、損失が出るかもしれません。あくまでも投資・運用の成果に対する責任は、投資家自身が負うことになります。

出典：FP オフィス「あしたば」HP <https://ashitaba-mirai.jp/>

資料④ 「預貯金」

班で話し合っで大切だと思うところに線を引き、自分で説明できるようにしよう。

○預貯金について  
 預貯金は一言でいうと以下のような金融商品です。

- 【預貯金の特徴】
- ・銀行等にお金を預けること
  - ・給付の受け取り、公共料金の引き落としなどにも利用
  - ・お金の引き出しが簡単（銀行やコンビニのATMなど）
  - ・元本保証あり（元本1000万円までとその利息）  
 ⇒元本保証とは、金融商品の購入・投資に充てた資金が減ることはない

【利息と金利】  
 ○利息(利率)～借りたり、貸したりしたお金の、一定の割合で支払われる対価(金額)

○金利(利率)～借りたり、貸したりした資金に対する対価の利率(%)  
 (例)金利0.01%で100万円を預けると1年後は100万10円  
 ※10円が利息となる！

【預貯金で金利を実感してみよう！(72の法則！)】

$$72 \div \text{金利}(\%) = \text{お金が2倍になる期間}$$

(例)銀行に預けた10,000円(元本)が20,000円になるのに必要な年数

- 祖父母世代(預金金利8%)  $72 \div 8 = \text{約} 9 \text{年}$
- 親世代(預金金利6%)  $72 \div 6 = \text{約} 11.9 \text{年}$
- 現在(預金金利0.01%)  $72 \div 0.01 = \text{約} 6,932 \text{年}$

※現在の金利はほぼ、ゼロ。預貯金は金庫に安全に保管してもらう。

出典：金融庁HP <https://www.fsa.go.jp/news/r3/sonota/20220317/04-2.pdf>  
 一般社団法人 全国銀行協会HP <https://diamond.jp/articles/-/286493>  
 DIAMOND online <https://www.zengkyo.or.jp/article/tag-c/5204/>

2022年 月 日

家庭基礎 No.16	第3編 第1章 消費行動を考える 『将来のライフプランニング』	年 組 番 氏名
---------------	------------------------------------	-------------

**目標**

**<Warm-up> 人生のなかで絶対に経験したいライフイベントに○をつけよう**

進学 ・ 資格取得 ・ 就職 ・ 一人暮らし ・ 結婚 ・ 育児 ・ マイホームを購入  
車を購入 ・ 親の介護 ・ お墓を購入 ・ その他 ( )

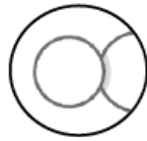
**<Work 1> 老後の不安にどう備える？**

Aさんは最近結婚しました。最近のパートナーとの話題は、もっぱらこれからの結婚生活や子育てについてです。最初は楽しいことばかり考えて、楽しかったのですが、マイホームや子どものこと、お互いの親の介護のこと、自分たちの健康面、退職後の暮らし方について話しているうちに、だんだん経済的なことが不安になっていきます。  
毎月給料から一応貯金はしているのですが、このまま貯金をしていくだけで、これからの生活や老後は安心してすごせるのか悩むばかりです。

Aさんに一番びったりな資産形成の仕方を教えてあげましょう！

**Aさんのプロフィールとライフスタイル**

- 年齢：29歳
- 性別：男性
- 職業：高校の国語科の先生
- 家族構成：パートナーとふたり
- 子どもの人数：2人希望
- 実家の家族：(Aさん)両親、妹 (パートナー)両親



- 住居はどうする？…ゆくゆくは購入したい。  
できれば大災害後(南海トラフ地震など)に購入したい。
- 老後の過ごし方は？  
退職したら仕事はせず、親の実家がある九州で農業をして過ごしたい。パートナーも一緒に行く予定。そのため移住の準備や農機具などの購入を退職までに済ませておきたい。

(1)資料を読んで、大切だと思うところに線を引き、自分で説明できるようにしよう。(別紙)

自分の担当に○をつけよう

**私の担当は、( ①株式 ・ ②債券 ・ ③投資信託 ・ ④預貯金 )です。**

(2)各担当の説明を聞き、資産形成の要点について「安全性」「収益性」「流動性」「項目を◎△、おすすめ度を1~4でまとめよう。(班で話し合ってから話し始める必要はない、自分の考えを記入)

	安全性	収益性	流動性	おすすめ度		安全性	収益性	流動性	おすすめ度
①株式					③投資信託				
②債券					④預貯金				

(3)Aさんに合った資産形成を班で話し合ってから結論を出そう。

結論 私たちが選んだAさんにおすすめの資産形成は、  
( ①株式 ・ ②債券 ・ ③投資信託 ・ ④預貯金 )です。  
理由は、  
です。

(4)各班で話し合った結論を発表しよう。  
他の班の発表を聞きながら、自分たちにはなかった意見や、なるほどと思ったことをメモしよう。

メモ

**<Work 2> 今日の授業をふまえて考えよう**

(1)自分が将来のリスクに備えるために選びたい資産形成とその理由を考えよう。(思・判・表)  
わたしが選んだ資産形成は、( ①株式 ・ ②債券 ・ ③投資信託 ・ ④預貯金 )です。  
理由は、

＜発展＞今日の授業に興味をもったひとは・・・

- 書籍(大和西高校図書館にあるもの)



給与明細から読み解く  
お金のしくみ  
監修者 高橋剛  
編纂者 宮田玲子  
発行人 廣瀬和二  
発行所 図書印刷株式会社



マンガでわかる  
高校生からのお金の教科書  
監修者 高橋剛  
編纂者 宮田玲子  
発行人 廣瀬和二  
発行所 図書印刷株式会社



14歳からのお金の話  
著者 池上彰  
発行人 石崎五  
発行所 株式会社マガジンハウス



経済ってなんだ?  
世界一たのしい経済の教科書  
著者 山本御陰  
発行人 小川淳  
発行所 SBクリエイティブ株式会社

(2)今日の話し合いを評価しよう。

A	他者の意見を引き出し、補ったりして話し合うことができる。
B	自分の意見を出し、その根拠とともに話を深めたり、広げたりしている。
C	自分の意見を出すことができる。
D	自分の意見が出せない。

話し合いの自己相互評価	自分	グループメンバー
<Work1>(1)	( )	( )

話し合いの自己相互評価	自分	グループメンバー
<Work1>(2)(3)	( )	( )

今日の授業の感想・質問など(何もなければ記入しないで大丈夫です)

- (3)フオームで回答しよう。
- ①単元を貫く問い「成人として適切な意思決定をし、持続可能な消費生活を実現するために自分ができることは何か考えてみよう。」を「資産形成」というキーワードを使って考えてみよう。
  - ②今日の授業を通して、大切だと思ったこと、課題解決のために自分ができることは何か考えてみよう。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
単元の評価標準	<ul style="list-style-type: none"> <li>-[知]家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。</li> <li>-[技]消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解しているとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。</li> <li>-[知]生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解しているとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。</li> </ul>	<p>生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費、持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理、消費行動と意思決定、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>

● Web サイト(資料①～④作成に使用したもの)



金融庁 HP  
報道発表資料  
「応用編 4 貯める・増やす～資産形成～」



一般社団法人 全国銀行協会 HP  
「外貨預金の特徴を知る」



FP オフィス「あしたば」HP



いるはに投資 HP



DIAMOND online  
「【実は増え方が 10 倍違う?】預金は【金利】を必ず意識しなさい」

※ 2次元コードのリンク先については、令和4年10月(授業プリント作成)時点のものになります。